

歯周病の治療法

今回は、医院内でおこなう歯周病の治療法について治療の流れに沿ってお話したいと思います。

1. 応急処置

急性症状がある場合におこないます。歯肉が腫れている場合の切開、排膿(膿をだす)、かみ合わせの調整、投薬などの処置をおこないます。

2. 診査・診断

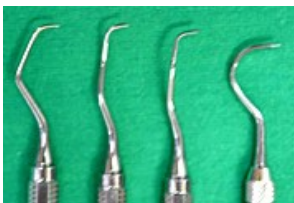
プラークの付着状態、歯周ポケットの深さ、レントゲン診断、歯槽骨の吸収程度、歯のぐらつきや歯肉の炎症の程度、咬合状態などを細かくチェックします。そうした診査結果に基づき、具体的な処置内容を決定して実際の治療を開始します。

3. プラークコントロール

プラーク除去の大切さをお話し、患者さんのプラークコントロールの現状や、口腔内の状況を把握し、患者さんに合ったプラークコントロール法を指導します。

4. スケーリング

歯科医院で行うプラークコントロールの最初のステップがスケーリングです。歯肉の上の目に見える部分と歯肉の少し下に隠れているプラークや歯石を、スケーラーという特殊な器具で取り除きます。



手用スケーラー



超音波スケーラー

今までこびりついていた歯石がとれるので、歯と歯の間に隙間ができたり、歯が長くなったように感じる方がいます。ついていた歯石が取れたためですから心配ありません。

5. 再評価

一通り歯肉縁上歯石を取り終えたところで、歯肉がどの程度健康を取り戻しているか検査します。

6. ルートプレーニング(SRP)

再評価で歯肉縁下に歯石が存在する場合には行います。これは歯肉に隠れて見えない歯根面についている歯石や沈着物などを、特殊な器具を使って取り除き根面をツルツルにすることをルートプレーニングといいます。



治療前

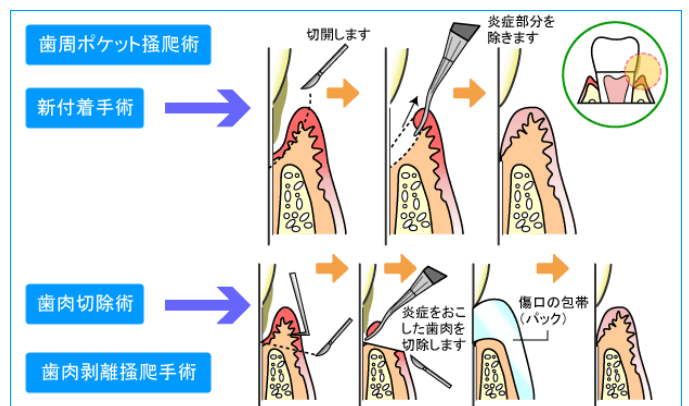


治療後

7. 歯周外科手術

これまでの治療で治りきらなかった部位に対し、歯周外科手術を行います。病気の原因が目で確かめられるよう、歯肉を切って歯槽骨からはがし、根の先の方や、根と根の間にこびりついて取れなかった歯石を除去し、滑沢にします。つまり、悪いところを直接目で見て徹底的に取り除くのです。

歯周外科手術はこの他にもさまざまな術式があり、症状に応じて使い分けられます。しかし、どんなに新しい治療法を用いても、手遅れの歯周病は治療できません



歯周外科手術の1例